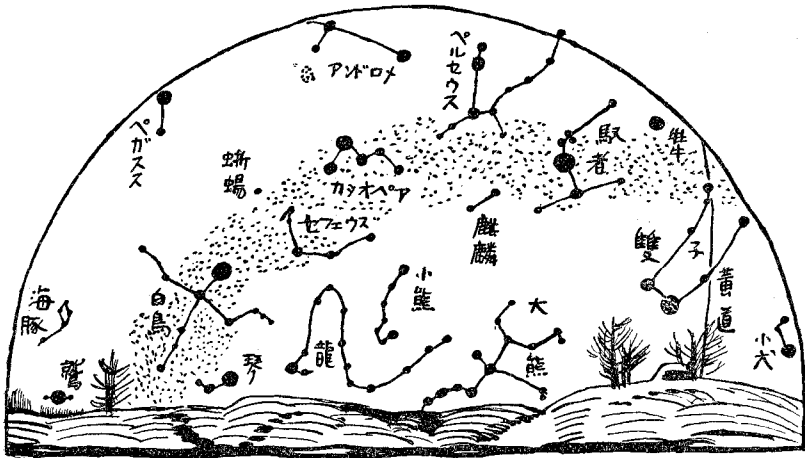


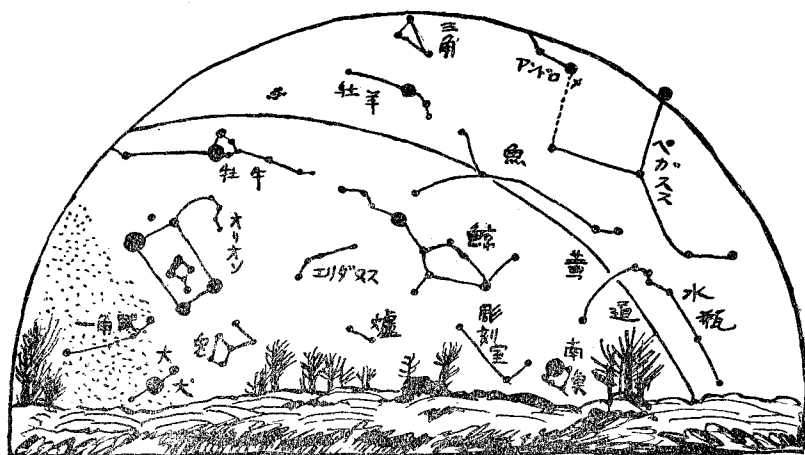


十二月の北天

北風に迫立てられて、行人の脚の運びも心忙しくなる年の瀬に、星の刻みは厳かに、遅速ない歩みを進めて行く。秋の星座が静かな歩調で西に移るさ、オリオンの三つ星が宵の東天に現はれて「冬が来たよ」と囁く。天の川の光は弱いさ、此の流域にはシリウス、リゲル、プロシオン、ベテルギウス、ホルクスカベラやデネルに至る迄一等星の星々が青赤黄の色とりどりに瞬いて、其等の合間々々には華やかなアレアデスやヒアデスが輝く、アルゴールの様な愛嬌者も混つて、此頃の夕べの空はなかなか賑やかである。

此れに反して遊星としては唯、木星のみが魚座に居て宵の南天を、例の大家族を引き連れて順行して居る丈で、他に肉眼的観望に適するものはない。木星は3日午前10時さ、30日午後8時さに月さ合さなる。

9日午前2時半の月蝕さ、24日午後1時の日蝕さは特に注意すべき今月中での大きな出来事である。



十二月の南天

太陽、中旬まで入馬宮にあるが22日から磨羯宮に入る。今月中は大體太陽の視中心が其の緯度零度と一致して居るから黒點は太陽面を東西に直線的に移動する様に見える。

月、2日午前11時15分上弦、9日午前2時32分満月(月蝕)、16日午前9時4分下弦、24日午後1時13分新月(日蝕)、31日午後8時22分上弦となる。7日午前10時近地點を、19日午前7時遠地點を通過する。

水星、月始め暫らく暁に見える。10日午前8時火星と合となる。

金星、暁の明星として輝く、光度負3.9等、20日午後1時月と合となる。

火星、朝の星なれど太陽に近く、光度は1.7等なれど觀望に適せず。地球との接近は明年の末まで待たねばならぬ。

土星、3日太陽と合となり暫らく觀望不能、月末には稍よくなる。27日午前7時火星と合となる、光度0.7等。

天王星、始め魚座を逆行し、10日留となり順行に移り木星の先行をなす。

海王星、2日留となりて後逆行に移る。14日午前8時月と合となる。獅子座にあり夜半後の星であるが光度が7.7等だから望遠鏡が必要。